

の軽減を図ってまいります。
なお、ゴミ減量化の推進は単町だけでは困難性があることから、渡島西部広域事務組合と連携を図りながら進めてまいります。
また、引き続き不法投棄の未然防止に努めてまいります。

道路は、町民の日常生活と町内外における経済活動の基盤となるものであり、これらの基幹となる国道及び道道については、沿線の各町内会から多様な要望がなされております。

速やかに課題が解決できるように、適切な維持管理や道路改良の早期実施に向けて、引き続き関係機関に要請してまいります。

町道の改良及び橋梁などについては、各地域からの要望を踏まえるとともに、緊急性と優先度を勘案しながら、「第5次福島町総合計画後期実施計画」及び「長寿命化計画」に基づき、安全で安心に使用できる道路及び橋梁等の機能保全に向けた整備を計画的に推進してまいります。

町営住宅については、人口減少に対応した管理戸数の整理と、老朽化が著しい改良住宅の再編、そして若者や子育て世帯が安心して暮らせる住宅ストックを確保する目的から、若者・子

育て向けの定住住宅整備を進めてまいります。また、既存の町営住宅についても入居者が安心して暮らせるよう、計画的な維持・修繕と日常の管理に努め、快適な住環境を提供してまいります。

町内の空き家対策については、「空家等の適正管理に関する条例」による解体補助を継続するとともに、危険空き家の解消に努め、隣接する町民の不安の解消に努めてまいります。

例年、季節を問わず全国各地でこれまでに経験のしたことのないような自然災害が発生しており、各地の住民生活に甚大な被害をもたらすとともに、住民生活に多大な影響を与えております。

想定外の大規模な自然災害に備えるため、「国土強靱化計画」に基づき、防災・減災に向けて取り組むとともに、自然災害から町民の生命と財産を守るため、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

また、新型コロナウイルス感染症の現下の状況を踏まえ、災害発生時に新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を適切に行いながら、避難所の運営が行われるよう防災備蓄品や運営体制を整えるとともに、防災

マップの改定を進めてまいります。

地域コミュニティの活動拠点である各町内会館等については、令和4年度においても、引き続き計画に基づき整備してまいります。

近年、世界各地で異常気象による災害が発生し、北海道や当町においても大雨や大雪の発生頻度が増加するなど、住民生活に多大な影響を与えており、その主な要因として、地球温暖化があげられております。

このため、北海道では「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロ」を目指すことを表明し、取り組みを加速させているところであります。

当町においても、環境にやさしい「電気自動車」の導入や、新たな吉岡温泉施設の整備にあたっては、「木質バイオマスボイラー」を導入するなど、地域資源が循環する仕組みを推進し、小さなことから脱炭素化社会の実現に向けて取り組んでまいります。

また、コンブ・海藻などのブルーカーボン生態系の利活用を模索してまいります。

6 地域資源を活用した交流人口の促進

当町は、日本が世界に誇

る世紀の遺産「青函トンネル」、日本唯一の「二人の横綱が誕生した町」、道南の秀峰「大千軒岳」や道南の秘境「岩部海岸」、「青の洞窟」等の素晴らしい自然や景観、「殿様街道」をはじめとした歴史に基づく史実、海や山からの特産品の数々等、地域資源が豊富な町であります。

人流の抑制が伴う新型コロナウイルス感染症の影響は計り知れないものがありますが、この様な、地域に存在する多様な地域資源を活用して、地域の活性化に取り組みとともに、交流人口や関係人口の創出を図ってまいります。

「食」による地域の魅力を発信するため、町内の飲食店が協力し福島町観光協会がプロデュースした「フードツーリズムプロジェクト」が展開され、1年が経過しております。

フードツーリズムプロジェクトで開発された「アワビカレー」と「いかとんび入り和風パスタ」については、改めて町民の皆様への周知等に取り組んでまいります。

また、当町の豊かな「食」を活かし、地域の活性化に繋げるため、新たな「フードメニュー」の開発などの取り組みについて支援して

まいります。

観光情報や地域の魅力の発信については、様々な媒体を活用し積極的に発信することが重要でありますので、観光ホームページやポスター、パンフレット等によりPRを実施するとともに、イベントや観光施策及び地域資源の積極的なプロモーション活動に取り組んでまいります。

7 第2青函トンネル構想の実現

第2青函トンネル構想の実現に向けた取り組みについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、機運を高めるための講演会の開催や、各方面への要請活動については自粛せざるを得ない状況となっており、思うような活動の展開が妨げられております。

この様な状況ではあります。昨年11月には北海道選出の衆議院議員及び参議院議員の東京事務所を訪問し、第2青函トンネルの必要性と構想の実現に向けた活動について理解を求めるとともに、国政の場においても議論を深めていただけるよう、要請を行ってまいりました。

令和4年度においては、全道に第2青函トンネルの必要性を認知していただく